

2021年12月26日 午前礼拝
「永遠のいのちを楽しむ秘訣」 説教者:堺希望 伝道師

Iヨハネ 2:18-25

18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。

19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。

20 あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

21 このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。

22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。

23 だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。

24 あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。

25 それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。

【説教要約】

最初に、暗証聖句である Iヨハネ 4:7-10 を皆さんで読みましょう。

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ 4:7-10

毎回メッセージを準備する度に、何度もこの Iヨハネを読むのですが、その度に一番ここに書かれている愛が足りないのが自分であると教えられます。しかし神に感謝します。神様は私をずっと昔から愛し、イエス様のいのちを与えて下さいました。私はイエス様の愛を知りました。

こんな者でも愛せるように神様はしてくださる。それがこのみことばです。

① 今は終わりの時

18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であることがわかります。

Iヨハネ2：18

かつてイエス様は、世の終わりが近づくとどうなるのか、弟子たちに教えられました。

イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。

マタイ24：3-5

ヨハネは、多くの反キリストが現れたので、今は終わりの時だと分かります。このヨハネの手紙が書かれたのは、今から1900年も昔です。聖書の他の箇所でも、世の終わりは近づいたということを言っています。聖書が間違えているのでしょうか。

そうではなく、今も昔も「終わりの時」なのです。

16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。

2 主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。

3 人々が「平和だ。安全だ」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。

4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。

5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。

6 ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。

Iテサロニケ4：16-5：6

世の終わりに、イエス様がまた来られます。その時に、私たちは顔と顔を合わせてイエス様に会えるのです。それは今日かもしれないし、10年後かもしれない。大事なのは、イエス様とお会いすることに望みを置いて生きる事です。その日には、私たちはこの朽ちていくからだを脱ぎ捨て、滅びゆくこの世から離れ、完全にイエス様と一緒にいられるようになるのです。

主を信じて亡くなられた方においても同じです。彼らも、主と共に生きており、完全なからだで会うことができます。しかしこの世は、そのような希望を持ってません。死は悲しみの極致でしかありません。しかし私たちは死の向こう側に希望があるのです。「今日、主が来られたら」と期待して生きたいものです。

②「イエス」とは何者か

19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、そうなったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためなのです。

20 あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

21 このように書いて来たのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからであり、また、偽りはすべて真理から出てはいないからです。

22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。

23 だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っているのです。

I ヨハネ 2 : 19 - 23

ヨハネの時代にも、すでに反キリストは現れていました。4 : 1 では「にせ預言者」と言われているので、みことばを教える教会の教師だったようです。しかしこの人たちは、なんとイエス様を信じていなかったのです。教師が偽者だなんて、とても恐ろしいことです。しかし神様は、彼らが仲間ではなかったことを明らかにして、教会を守ってくださいました。

これは別に、教会を移る人は反キリストだとか、出て行った人が間違っていて、残った人が必ず正しいという意味ではありません。誰に従っているかということなのです。この時出て行った人たちはイエス様を否定して去っていきました。イエス様に従っていたわけではないのです。それで、イエス様に従っている人々と一緒にいられることができなくなり、出て行ったのです。それは、神様が明らかにしてくださったことでした。

人は心の中まで見ることはできません。言ったことが、本当に心で思っていることなのか知ることにはできません。しかし、神様は人の心の奥にあるものをご存知なのです。

「人はうわべを見るが、主は心を見る」

I サムエル 16 : 7

それで神様は、心の中で信じているものを明らかにして、反キリストが去っていくようにされました。

反キリストは本当の教師のふりをしながら、神様ではなく自分の教えを教えました。しかし教会はその教えに惑わされませんでした。

20 あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。
I ヨハネ 2 : 20

そそぎの油とは何でしょうか。聖霊のことです。聖霊が、反キリストの教えを聞いた時に、それが偽りであると教えたのです。神様が、クリスチャンひとりひとりの中にいて、正しい教えかどうか判断して下さったのです。

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。
ヨハネ 14 : 26

聖霊は、何が神様から出た真理なのか、何が人から出たものなのかを教えてください。私たちの究極の教師なのです。それで、ヨハネの手紙を最初に読んだ人たちは、反キリストの教えから守られたのです。

偽物の教えは現代、溢れかえっています。ここでは、偽りの教えを見抜く分かれ目をはっきりと教えています。それは「イエス様とはだれなのか」ということです。世間は、歴史に名を遺した立派な人々の中にイエス様を入れます。立派な教師だったと言います。イスラム教でもイエス様は尊敬されていますが、それは神様の言葉を語った人間の預言者としてです。エホバの証人では天使ミカエルであり、神様ではないと言います。またある人は、イエス様は神であり救い主であるけれど、たくさんある救いの手段のひとつだと言います。しかし私たちは、

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

わたしを見た者は、父を見たのです。
ヨハネ 14 : 6, 9

有名な聖句です。「わたしが道であり」の「が」は、「こそが」という意味です。神様を知る唯一の道はイエス様だけです。イエス様との繋がりがなければ、神様との繋がりもありません。

また、大木先生がよく証の際に教えてくださいますが、イエス様を見た者は父なる神を見たのです。イエス様は寸分変わらず神様なのです。その神様がへりくだって人となられた。人は、そのことが受け入れられないのです。

それで I ヨハネでははっきりと、「だれでも御子を否認する者は、御父を持たず、御子を告白する者は、御父をも持っている」と言われています。神様は信じているがイエス様は信じられないという意見はありえないのです。本当の神様の御性質はイエス様だけにしか見ることができないからです。

ですので、「イエス様は唯一の神様であり、救い主である」という、とても単純なことが、実は偽の教えとの最大の違いなのです。この方だけが、人を救うために世に来てくださった神様なのです。

③永遠のいのちを楽しむ秘訣

24 あなたがたは、初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどませなさい。もし初めから聞いたことがとどまっているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。

25 それがキリストご自身の私たちにお与えになった約束であって、永遠のいのちです。

Iヨハネ 2 : 24-25

今日の箇所を中心となることはこのことです。「とどまる」ということです。

この当時の反キリスト達は、「自分たちはあなた達の知らない特別な知識があるので、特別な人間だ」と考えていました。今日ではグノーシスという名前と呼ばれています。人は特別になりたいものです。誰かより秀でていたい。何のとりえもなく、みじめでいたくない。なぜそう思うのか。神様に認められたい、愛されたいからなんです。しかし人は罪を犯したので、神様からそのままでは認められません。愛そうとしている神様の愛が分かりません。そこで人は愛されるためにどうするか。人より特別になろうと上に行くのです。

では本当は、どうしたら神様の愛をもっと知ることができるでしょうか。答えは「初めから聞いたことを、自分たちのうちにとどませ」ることです。すべての答えは福音にあるということです。

新しいことを付け加える必要はありません。もっと特別になろうとする必要はありません。すでに福音を受け入れた時点で、最高に特別な存在なのです。イエス様が自分の罪のために死んで、よみがえってくださった。これ以上に大事なことはありません。

イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。

Iヨハネ 5 : 1

ですから、イエス様を自分の救い主として信じたのであれば、このことに何か足りない事があると思ったり、あるいはもしかすると自分は救われていないんじゃないかと思う必要ありません。聖書を学ぶのは、福音がどれほど深く素晴らしいかを知るために学んでいるのです。

本当に主に感謝します。神様は、一番大切に高価な物を、一番足りない時に与えて下さいました。

すでに永遠のいのちの中に移されているのです。それは神様とずっと一緒にいられるということです。それは今から、いつまでも楽しむことができるのです。もっと福音を味わい、永遠のいのちを楽しみたいと思います。

【説教者:堺希望 伝道師】